

13. 薬学部

(1) 薬学部の教育目的と特徴	13-2
(2) 「教育の水準」の分析	13-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	13-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	13-8
【参考】データ分析集 指標一覧	13-10

(1) 薬学部の教育目的と特徴

1. 薬学は、人体に働きその機能の調節等を介して疾病の予防・治癒、健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学である。京都大学薬学部は、この薬学という学問の基礎体系を深化させ、創薬科学、医療薬学の教育・研究を通して薬学の進展と社会の発展に貢献することを目標としており、産官学における幅広い薬学関連分野でリーダーとなる人材を輩出している。

2. 薬科学科（4年制）では、創薬に関係する幅広い分野において、将来、リーダーとして国際的に活躍することのできる人材を育成している。薬学科（6年制）では、医療薬学に関係する幅広い分野において、将来、医療薬学研究者のリーダーとして国際的に活躍することのできる人材、および高度な先端医療を担う薬剤師・医療従事者のリーダーとして社会に役立つ人材を育成している。

3. 「レイトスペシャライゼーション」という教育課程の編成の方針を採っている。3年次までは一学科制のもとで全学共通科目と基礎薬学科目を広く学修し、自己の適性と能力に基づいた将来設計を考慮して学科（薬科学科、薬学科）ならびに学問分野を選択することが求められる。4年次以降は、それぞれの学科ごとの関連分野を学びつつ、自ら選択した専門分野を重点的に学修する。それに伴い、2018年度入学者から、薬科学科の定員を50名から65名に、薬学科の定員を30名から15名に変更した。また、一般入試において、両学科一括募集を行っている。

4. 2018年度以降入学者のカリキュラムでは、特色ある演習科目の充実と選択科目の増加が大きな特徴になっている。演習科目については、研究者・医療従事者を目指す学生としての、コミュニケーション技術、論理的思考力、ディベート能力・技術、自学自習の仕方、時間外学習の訓練、プレゼンテーション技術、ディスカッション技術、グループワークの体験等、これらの学修を目的として開講されている。併せて、学生同士や学生と教員の距離を縮める効果も期待されている。また、1回生の時点で研究室見学を行わせたり、2～3年生のモチベーションの高い学生を対象に、早期から研究分野の一員となり教員および院生の指導のもとで薬学研究を行わせることで、研究や学術探究に対する意識・意欲を高める試みも行われている。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5213-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5213-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料
（別添資料 5213-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料
（別添資料 5213-i3-3～6）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○本学の教養・共通教育の企画及び実施を担う国際高等教育院では、2016年度から、科目群と科目の見直し、英語科目の見直し、少人数教育と学際教育の充実、時間割のブロック化を実施し、社会の変容や国際化の進展、高大接続、専門教育との接続等に対応した。

また専門科目においては系統的な学修課程となるよう検討を行った結果、2018年度学部入学者からのカリキュラム改革を行った。1、2年次に基礎教育、3年次にかけて徐々に専門化していくレイトスペシャリゼーションが特徴である。選択

京都大学薬学部 教育活動の状況

科目の増加により、履修科目を選択できる幅が広くなり、人材の多様化が期待できる。また、研究者・医療従事者を目指す学生としてのコミュニケーション技術の獲得、論理的思考力の醸成、ディベート能力・技術の獲得、自学自習の仕方、時間外学習の訓練、グループワークの体験を目的とする「薬学研究 SGD 演習」等の特色ある演習科目の充実により、能動学習および少人数教育の充実と早期体験による研究者マインドの醸成を推進している。[3.1]

<必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料
(別添資料 5213-i4-1~2)
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料
(別添資料 5213-i4-3~4)
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数
(別添資料 5213-i4-5)
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料
(別添資料 5213-i4-6)
- ・ 指標番号 5、9~10 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○新しい学部カリキュラムでは、いくつかのアクティブラーニング科目や、研究マインドを醸成するための科目が開講されている。「薬学研究 SGD 演習」では「主体的な学び(課題発掘)」のスキルやチームワークでの課題解決スキル等を修得する。「基礎科学演習」では研究に必要なブレインストーミング、討論、発表、質疑応答、レポート執筆などの基礎的な姿勢・態度・技術を修得する。「早期専門研究体験」では研究に必要な考え方や技術に触れるとともに学年を超えた密度の濃い交流を経験することで、4年次からの特別実習(卒業研究)、大学院修士課程・博士(後期)課程での専門研究やその後の将来設計を考える機会が得られる。[4.1]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5213-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5213-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 5213-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5213-i5-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○学部1回生から3回生まではグループ担任を割り当てており、薬学部の講師以上が担当している。学修や学生生活について、学生の相談に応じている。成績不良者にはグループ担任から連絡をとり、面談の機会を設けている。成績不良者の状況については、教務委員会で情報共有している。学部4回生以上については、研究室に配属されており、指導教員が研究指導を行うほか、学修や学生生活について、学生の相談に応じている。その他、やむを得ない事情が生じた場合を想定して、指導教員変更の制度がある。[5.1]

<必須記載項目6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準（別添資料 5213-i6-1）※2019年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5213-i6-2～3）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5213-i6-4）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○薬学科では、実務実習を行うに必要なかつ十分な基礎的知識や技能・態度を備えているかどうかを評価し、保証するために4回生に共用試験を行っている。「知識および問題解決能力を評価する客観的試験（CBT）」と「技能・態度を評価する客観的臨床能力試験（OSCE）」がある。2018年度におけるCBTの合格率は93%、OSCEの合格率は97%となっており、非常に高い水準になっている。[6.1] [6.2]

<必須記載項目7 卒業（修了）判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5213-i7-1～2）

京都大学薬学部 教育活動の状況

- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料
(別添資料 5213-i7-3～4)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 薬学科において、6回生の特別実習発表会を行っている。ここでは学生が学位認定のため、学修成果の口頭発表と質疑応答の演習を課されている。併せて、論文調査委員を選出し、学生が特別実習発表会の事前に、論文を提出することになっている。その後、論文調査委員により指導された、最終論文が教務掛に提出されている。修士論文とほぼ同様のプロセスで評価されている。[7.1]

<必須記載項目8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5213-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5213-i8-2）
- ・ 指標番号1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016年度入学者から「特色入試」（志願者の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価する本学独自の選抜方式）が導入されている。2016～2017年度は薬科学科のみの実施だったが、2018年度からは薬学科でも実施されている。併せて、優秀な留学生を確保するために、「私費外国人留学生特別選考」を行っている。これは京都大学他学部では、工学部と経済学部のみが行っているものである。両方の入試とも実施方法や実施時期等、毎年改善を重ねている。例として、2018年度入学者から「私費外国人留学生特別選考」において、二段階選考を行っていることが挙げられる。第一次選考では書類選考、第二次選考では論文試験および面接試験を行っている。より精度の高い面接試験を行うことが可能となり、優秀な留学生を確保できるようになった。[8.1]

<選択記載項目B 地域・附属病院との連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○京都大学医学部附属病院と連携して科目「病院実務実習」、京都市の薬局と連携して科目「薬局実務実習」が薬学科5回生を対象に行われている。「病院実務実習」は病院薬剤師の業務と責任を理解し、患者・生活者本位の視点に立ち、チーム医療に参画するために、調剤および医薬品管理、医薬品情報、製剤、病棟薬剤業務などの薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を修得することを目的としている。「薬局実務実習」は薬局の社会的役割と責任を理解し、地域医療に参画するために、保険調剤、健康・保健衛生についての基本的な知識、技能、態度を修得することを目的としている。加えて、主に1回生を対象として、科目「多職種連携医療体験実習」において、夏季休業期間中の8～9月の一週間、京都府内外での病院において行う実習が行われている。 [B. 1]

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○授業を一部公開授業とし、教員が参観するFD活動を毎年実施している。参観者の授業運営への参考とすると共に、アンケート結果を公開授業担当者にフィードバックし、より良い授業運営へつなげている。また、前述の科目「薬学研究SGD演習」では、初年度開講前の2018年3月14日に、教員間でこの科目の目的や進め方について、コンセンサスを得ることと、少人数教育について高等教育研究開発推進センターの教員からアドバイスを受けることを目的として、FDが開催された。薬学研究科教員の概ね8割が出席し、教育の質の保証・向上へ取り組んだ。 [C. 1]

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5213-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5213-iii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 薬学課程卒業者の薬剤師国家試験合格率（厚生労働省公表）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○2018年度卒業生において、薬学科の卒業生 28 名全員が薬剤師国家試験に合格した。自然や社会、健康や疾病に関わる多様な事象に関心を持ち、医療薬学および生命薬学を通して薬学の進展と社会の発展に貢献できる専門能力とリーダーシップをもつ人材を育成している。 [1.2]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○2018年度の薬学部薬科学科卒業生 51 名の内、48 名が薬学研究科修士課程に入学しており、非常に高い進学率を示している。 [2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料
(別添資料 5213-iiA-1)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

○薬学部の2018年度卒業生を対象としたアンケートでは、「薬学部での学修は、将来役に立つと思われましたか？」の設問において、肯定的な回答の割合は4年制95%、6年制82%の高い水準を示している。「薬学部での学修に満足しています

か？」の設問でも、肯定的な回答の割合は4年制 91%、6年制 79%の高い水準を示している。 [A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。